

平成 28 年度第 2 回市民協働推進委員会会議概要

日 時 : 平成 28 年 6 月 26 日 (日) 13:30 ~ 17:10
会 場 : 市役所 1 号館 3 階会議室
出席委員 : 名和田委員長、近藤副委員長、田辺委員、寺田委員、釘地委員、宇田川委員、
大木委員
事務局職員 : 井岡参事、鴨志田副主幹、小田主査、尾形主任主事
傍聴者 : 1 名

議事 : 平成 28 年度市民協働事業 (市民提案型) について

1 . 開会

(省略)

2 . 委員長あいさつ

(省略)

3 . 議事

事務局：議事の前に傍聴を希望される方が 1 名いらっしゃるのので、入室についてご指示をお願いします。

委員長：傍聴人の入室を許可する。

(傍聴人入室)

委員長：傍聴人には、傍聴要領に従って、円滑な議事進行にご協力をお願いします。

事務局：以降の進行は、議長である委員長をお願いします。

委員長：議事に入る前に、私から確認及び報告をさせて頂く。1 点目として、先程入室を許可したが、傍聴人の対応については私から指示をする。2 点目として、本会議の公開の取り扱いについては、第 1 回委員会で確認したとおり、申請事業に対する審議を除いて公開となる。3 点目として、議事のタイムスケジュールは、1 団体につき、

4分間のプレゼンテーションと16分間の質疑応答を予定している。全部で7団体あるため、円滑に議事を進行できるよう各委員のご協力をお願いしたい。4点目として、事業の採点は事前に配布した事業別評価票に基づいて行うため、全ての項目にご記入をお願いしたい。事業別評価表は審議に入る前に一度回収し、集計終了後、審議の際にお返りする。5点目として、質問をする際は挙手をお願いしたい。最後に、本日の委員会は委員定数10名の内7名の出席があり、過半数以上の出席があるため、佐倉市市民協働の推進に関する条例の施行規則第18条第6項に基づき、成立していることを報告する。

(1) 市民協働事業(市民提案型)プレゼンテーション及び質疑応答(公開)

ハーモニーの会(高齢者施設等の訪問)

委員長: まずは4分以内で事業内容のご説明をお願いします。

ハーモニーの会: この活動を始めて3年目となり、現在19名の会員がいる。最初は、佐倉小学校のスクールガード活動を行っていたが、その中で高齢により活動から抜けたメンバーがいた。そのメンバーの中にハーモニカを演奏できる人がおり、皆で練習をして、市内の高齢者施設や障害者施設、敬老会等でハーモニカを演奏して一緒に歌い、手遊び等をして喜んでいただけたらと思い活動を開始した。今年も1月から6月まで毎月施設訪問をしている。7月と8月は訪問する予定はないが、9月から各施設へ訪問予定である。季節によって曲を変えたり、できるだけ一緒に歌ったり手遊びができるよう、内容を検討し、プログラムを作っている。どの施設も1時間程度ということでお話をいただいているが、1時間では足りないぐらいのプログラムを用意して訪問している。最年長のメンバーは88歳だが、一番若々しく積極的に活動しており、施設に入所しているの方が若いという場合もある。施設に入所している方から私たちが頑張らなければという言葉をかけていただき、メンバーも励まされて帰ってきている。入所されている方の中に草笛やウクレレを演奏できる方がおり、一緒に演奏する場合もある。また、紙芝居も持っていき、お話をしている。紙芝居は自分たちで作った物だが、余裕があれば新しいものを買いたいと考えている。以前は、佐倉地区と臼井地区の会員が多かったが、現在は市内各地区の会員がいる。

委員長: これから質疑応答に入る。

委員: 事業の目的及び効果でハーモニカの合奏や踊りなど、非日常的な喜びを与えるとあるが、どのような踊りか。

ハーモニーの会: 入所されている方の中に認知症の方が増えており、いきなり何かを始め

でもこちらを向いてくれない。向こうから声を出していただき、手足を動かしていただくようにすることにより、全員の目をこちらに向け、非日常的な喜びを与えるようにしている。

委員長：具体的にはどのような踊りか。

ハーモニーの会：踊りの師匠の弟子だった人が会員にあり、また、会員ではないが、山武市に踊りのできる人がいる。その方が施設で踊りをやっていたので、大変喜ばれていたため、佐倉でもやってみたくて考えていた。

委員：講師謝礼に2万×12か月とあるが、どのくらい講習しているのか。

ハーモニーの会：原則、毎月2回講習をしていただいている。講習1回につき1万円で月2万円を計上している。

委員：会の活動に関する勉強をするということか。

ハーモニーの会：講師は音楽の教師をしていた方で、施設訪問をする際のプログラムの組み方等のアドバイスやハーモニカ演奏の指導をしていただいている。

委員：1ページの事業目的に高齢者施設及び乳幼児親子の集まりを訪問し、喜びを持っていただけるようにするとあるが、3ページの年間スケジュールを見ると、乳幼児親子に関してあまり触られていない。12月の保健福祉センター訪問がこれにあたるのか。

ハーモニーの会：その通りである。クリスマス会等のイベント時に遊びやハーモニカ演奏、歌等を披露している。

委員：スケジュールの場所・対象者・人数欄にハーモニーの会として参加する方の人数が記載されていないが、会員全員で訪問するのか。

ハーモニーの会：都合がつく会員で訪問し、10名から15名程である。

委員：細かい点だが、申請書中に白翠苑と記載があるが、正しくは白翠園である。また、市民協同ではなく、正しくは市民協働となるので、気を付けてほしい。

ハーモニーの会：以後、気を付ける。

委員長：活動を始めて3年目とのことだが、施設訪問を行って、参加者の反応はどのようなものか。

ハーモニーの会：FAXでお礼状をいただくことやお電話でお礼を言われることもある。概ね好評で、次はいつ来てくれるのかといった言葉をかけていただくこともある。そのような施設には、すぐに予定を調整して再訪問するようにしている。一緒に歌ったり、語りかけたり、手を動かすと積極的にやっていただくうちに、参加者がにこやかな表情になるのがすぐわかる。私たちも施設の方から元気をいただき、次も頑張ろうという気持ちになる。施設とも良い関係を築けている。

委員長：子どもからの反応はどうか。

ハーモニーの会：2歳ぐらいの子が中心なので、紙芝居をすると近くの子は見入ってくれる。

委員長：子どもの前でハーモニカの演奏をしたことはあるのか。

ハーモニーの会：簡単な童謡を演奏しており、子ども達も一緒に歌ってくれる。

委員長：市民協働事業として、税金から助成金をお支払いするのであれば、子どもたちの前でも積極的にハーモニカを演奏してほしい。

ハーモニーの会：西部福祉センターと南部福祉センターを訪問する時は、事前に張り紙で日時を告知していただいております、子どもだけでなく保護者の方にも楽しんでいただいております。

委員：5ページの会費について162,500円となっているが、1人12,000円で会員19名となると計算が合わない。

ハーモニーの会：補助率が5割ということで、会費として集めた金額から162,500円をこの事業に充当している。施設から認知症の方が楽しみに待っていると聞かれることがあり、少しでも医療費が削減でき、認知症が進行しないように手助けすることのできたらいいなと思いながら、私たち自身も楽しく長く活動していきたいと考えている。

委員長：他に質問等がなければ、ハーモニーの会の質疑応答は以上で終了する。

NPO 法人ほっとすぺーす・つき（家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・さくら」）
委員長：4分以内で事業内容のご説明をお願いします。

ほっとすぺーす・つき：ホームスタートは訪問の仕方、傾聴、地域の特性、そして個人情報取り扱いなどの35時間に及ぶ研修を受けたボランティアが家庭を訪問し、親御さんの気持ちに寄り添う傾聴と共に家事や育児をしながら親御さんに寄り添った支援をする協働の2つを軸にした家庭訪問型子育て支援である。対象は、6歳以下のお子さんがある家庭で、利用は無料、ストレスが高く、ひきこもりがちな家庭を支援します。活動の特徴は6項目ある。1つ目は、待つ支援ではなく届ける支援、訪問型であること。2つ目として、虐待などが発生してから対応する事後型ではなく、発生の一手手前に予防する事前の支援であること。3つ目として、専門家による指導ではなく、子育て経験のあるボランティアによるフレンドシップを重視した支援であること。4つ目として、支援を受けた親が自信を取り戻す活動であること。5つ目として、利害関係のない無償によるボランティアであること。最後に、コーディネーターにあたるオーガナイザーはボランティアを養成する職務や保護家庭のニーズを把握すること等が挙げられます。ホームスタートさくらは、妊娠期から関わりのある佐倉市の健康増進課、子育て支援課、児童青少年課、他の関係機関と連携を図ることにより、より良い子育てのスタートができると確信しています。また、市や民間で実施されている母子保健事業や子育て支援事業に参加できない家庭で、誰かの手助けを必要としている気になる家庭へ支援を届けることができる。佐倉市が実施している産前産後の切れ目のない支援の一助になるものと信じている。私たちは、子育ては孤独で大変であるものから身近な人に相談できる楽しいと思えるものにしていきたいと思っている。未来を担い、生きていく子供たちを健やかに育成することは、大人社会の責任である。地域で子供を育む社会づくりが行われる中で、ホームスタート事業は人と人をつなぐ子育て支援活動である。子育て家庭が地域の人たちとつながるきっかけを作ります。現在、オーガナイザー3名、ホームビジター12名の合計15名で活動している。この秋には、ホームビジター養成講座を計画している。地域住民による地域の子育て応援隊であるホームスタートさくらにご理解、ご協力、ご支援をお願いします。

委員長：これから質疑に入る。全国的な組織であるホームスタートジャパンと関係を持ち、そこでスキルアップして、このような活動をされているという認識で良いか。

ほっとすぺーす・つき：ホームスタートジャパンは本部のような形でバックについており、そこでオーガナイザーの研修を受けている。そして、オーガナイザーがホームビジター養成講座を実施することで運営を行っている。本部から送られてくるマニュアルに沿っ

て活動している。

委員：事業目的に孤立しがちなストレスの高い家庭への訪問支援とあるが、このような家庭をどのように察知するのか。

ほっとすぺーす・つき：オーガナイザー3名が民生委員、主任児童委員をしており、その実務者会議等で気になる家庭の話がある。また、赤ちゃん訪問協力員の活動を通して、情報を得ることもある。子育て経験のあるメンバーであるので、その経験を踏まえて様々な活動を通して、情報を得ている。

委員：事業概要に利用申し込みをいただいた家庭に毎週1回訪問するとあるが、これは手上げ方式で、申し込みのあった家庭訪問するということか。

ほっとすぺーす・つき：そのような声が上がってくれば良いが、チラシや掲示も行っているが、そのような家庭はなかなか手をあげることができないのではないかと思う。2ページの協働の必要性にも記載したが、新生児訪問にて気になるご家庭が発見されたときにご紹介いただける機会を作っていただき、そこからつながりを持てたらと考えている。

委員：就学支援やこども食堂等の活動は高く評価している。ほっとすぺーす・つきには4名の役員がいたが、ホームスタートさくらを始めるにあたり、新たに役員を加えたという認識で良いか。

ほっとすぺーす・つき：ホームスタートさくらを始めるから増やしたという発想ではなく、今年の総会で理事を増やせるよう定款を変更した。普段の活動は、オーガナイザーと研修を終えたビジターで行っている。それとは別にトラスティという子供支援に対する見識が深い方で運営委員を構成している。今後、トラスティのメンバーが理事に加わる可能性もある。

委員：これまでのほっとすぺーす・つきの活動に比べると独自性が強い活動に思えるので、成功させるためにこの事業に関わるメンバーを役員に入れる方向で考えた方が良いと思う。

ほっとすぺーす・つき：トラスティの方に理事になっていただけるよう、お声掛けをしている。特に反対意見はないので、近々トラスティを兼ねている方が役員になるであろうと思われるし、その方向で積極的に動いていきたい。

委員：研修の拠点はほっとすぺーす・つきであるにしても、実際のこの事業の活動拠点は、地域性を考えるともう一工夫が必要となるのではないか。

ほっとすぺーす・つき：予算に通信・運搬費として携帯電話代を2台分計上しているが、市内全域で活動をするため、ボランティアであるビジター12名と連絡をとれるようにしている。また、利用者に何かあった場合は、オーガナイザーに連絡がとれるようにしている。この事業の拠点としては、ほっとすぺーす・つきにお世話になるが、椅子に座って待っているのではなく、自分たちで携帯電話を持って、どこでも走り回れるという形をとっている。

委員：地区ごとに拠点がある方が良いと思う。

ほっとすぺーす・つき：将来的には考えていかなければならないと思っている。

委員：地区ごとに組織を分けるのであれば、ビジターを育てていかないと難しい。最終的な目標としては、広範囲の活動ができるようにすることだと思うので、頑張ってもらいたい。

ほっとすぺーす・つき：全国で活動している団体の情報も得ながら、佐倉に最適な形で活動できるようにしたい。

委員：6ページの収支予算書に講師用交通費として旅費が計上されており、1ページの希望する支援内容に講師の記載があるが、講師は具体的に決まっているのか。3ページのスケジュールの5月にオーガナイザー研修が、6月にホームビジタースキルアップ研修とあるが、これは既の実施したのか。また、これと収支予算との関係について聞きたい。

ほっとすぺーす・つき：講師については、市の保健師等に講師のお願いをしたいと考えている。研修については、地域の怒鳴らない子育てのトレーナーの方や社会福祉協議会のボランティアに詳しい方をお招きして、お話を伺いながらスキルアップをしたいと考えている。スキルアップ研修については、2カ月に1回行っている。まだまだ、利用者が少ないこともあり、家庭を訪問したことがないビジターもいるので、みんなで情報共有をしながら、気持ちを高めるためにスキルアップ研修を行っている。

委員：収支予算書の寄付金収入に30,300円とあるが、達成できる見込みはあるのか。

ほっとすぺーす・つき：現在、寄付を募っている段階である。既に1名活動に賛同していただいた方から寄付をいただいている。せめて交通費だけは何とかしたいと思い、1回

の訪問につき500円を寄付金からお支払いしている。今後も、賛同していただける方を増やしていきたいと考えている。

委員：ビジター養成講座の講師謝礼が7回分計上されているが、講師は7回とも同じ人物か、それとも毎回違う人物か。

ほっとすぺーす・つき：大学の先生、ホームスタートジャパンの専任講師、市の職員等を考えている。

委員：来年度以降は研修の予算は減っていくのか。

ほっとすぺーす・つき：現在はホームスタートジャパンに講師をお願いしているが、毎年この金額を研修に使用するの難しいと思うので、来年度以降はオーガナイザーがその部分を担っていきけるよう努めていきたい。

委員：1ページの専門家等の技術的な支援で、市の様々な部署に協力していただくことは重要であるが、自分たちでできることは最大限努力することも大事である。

ほっとすぺーす・つき：そのように努めていきたい。

委員長：他に質問等がなければ、ほっとすぺーす・つきの質疑応答は以上で終了する。

ベコちゃん（「佐倉丼」普及活動）

委員長：4分以内で事業内容のご説明をお願いします。

ベコちゃん：佐倉市の農産物の豊富さや食の魅力が知られていない、佐倉市民が佐倉と言えばこのグルメが自慢だ、佐倉に観光に訪れた人々が佐倉に来たらこのグルメははずせないといった定着した特徴的なグルメがないことを課題に挙げ、2012年に佐倉城級グルメコンテストでグランプリを獲得した佐倉の農産物を使用した佐倉の魅力たっぷりの佐倉丼をご当地グルメとして、広く発信、提供することにより、佐倉の認知度や魅力アップにつなげようと活動を進めてきた。2014年からは佐倉市と協働することで、信頼性を持ってより広く発信することができ、効果的な活動につながっている。そして、昨年度より佐倉丼を市内の飲食店へ普及させることに力を注いできた。佐倉市の観光名所としてははずせない国立歴史民俗博物館内のレストランも提供店舗の1つになった。協力店にはのぼり旗を提供する等、統一性を図っている。今年度も佐倉丼提供協力店の拡充に向け、力を入れ積極的に取り組んでいきたい。佐倉市を有名にして、盛り上げ、佐

倉市の活性化のために活動を進めていきたい。

委員長：これから質疑に入る。

委員：毎年、イベントでの提供数が増えているが、具体的に工夫していることはあるのか。

ベコちゃん：イベントでは、ゆるキャラの佐倉井ちゃんとPRを行い、提供数は年々増えている。特に秋祭り、時代祭りでは50食ずつ増えている。今年度は、新しくまちのわに参加し、150食を提供した。提供協力店舗については、昨年度の3店舗から新たにアクアユーカリと志津市民プラザ内のカフェにご協力いただけるよう活動を進めている。

事務局：この事業の目的としては、販売数を増やすことよりも市内の事業者と連携して提供協力店舗を増やし、市外のイベント等でのPRを図ることである。また、定住促進の活動においても、市外や県外の方に佐倉市の魅力的なグルメとして佐倉井作りにご協力いただいている。

委員：佐倉豚を提供している事業者は1件しかないが、それでこれだけの量を提供できるのかという話が昨年でたと思うが、この件はどうなったのか。

ベコちゃん：佐倉豚に限定するという事は、現在しておらず、他の豚肉で代用している。協力店舗にお願いする際に、佐倉豚に限定してしまうと入手やコストの面で難しくなってしまうので、千葉県産の豚肉等で代用していただいている。ただ、イベント等で提供する時は、佐倉豚を使用している。

委員：以前作っていたとんすこうはどうなったのか。

ベコちゃん：ラードの入手が困難になったのと、手間がかかる割に、販売実績が伸びなかったため、現在は販売していない。

委員：今年は大きく3つのイベントに関わって提供するとのことだが、可能であれば、佐倉地区だけでなく、臼井地区や志津地区のイベントでの提供ができれば、より良いと思う。

ベコちゃん：協力店舗については、志津地区のアクアユーカリ、志津市民プラザ内のカフェと調整を進めている。イベントについては、今後検討する。

委員：イベントでの米飯の提供が難しくなっていると聞いたが、提供に問題はないのか。
のぼり旗を提供店にも掲げていただくと PR につながると思う。

ベコちゃん：のぼり旗は協力店舗にも掲げていただいている。昨年度は、イベント時に提供する際はいせやさんにお弁当を作っていただき、私たちは佐倉のみそやピーナッツ、豚肉等を使用した佐倉まぜそばを提供した。今年のまちのわイベントでは、お店のキッチンをお借りして提供した。時代祭りや秋祭りでも同様に考えている。

委員長：他に質問等がなければ、ベコちゃんの質疑応答は以上で終了する。

草笛&リーフル「ハッピー・はっぴ」(新春草笛コンサート「昼下がりのCaféテラス」)

委員長：4分以内で事業内容のご説明をお願いします。

ハッピー・はっぴ：目的は、草笛と言ったら佐倉、そんな場所にしたいと思っている。効果は、草笛愛好者が佐倉を訪れて、草笛を奏でることにより、佐倉は素晴らしいと感じてもらえる。口コミで日本中の愛好家が佐倉を訪れていただくことが、私たちの一番の喜びである。概要は、新春は草ぶえの丘で美しい草笛の音色で新年の幕開けを迎えたい。今回、私たちはゲストに西岡とし子氏を迎え、版画と草笛の音色が合体した癒やしの郷愁に浸っていただくことを企画した。成果としては、草笛の演奏を聴いた方々の中から1人でもやってみてほしいと思う人がいてほしい。そして、昨年は68名の方にご参加いただいたが、その人たちが更に仲間を連れてくださることを期待し、今回は80名の方に来ていただきたいと考えている。そして、なぜ協働なのかというと、私たちは小さな団体で認知度が低いので、認知度と信用度を上げていきたいと思っている。協働事業の中で、アドバイスをいただきながら、活動を進めていきたいと考えている。

委員長：これから質疑応答に入る。今年度は1回、年初に草笛のイベントを行うという事業という認識で良いか。

ハッピー・はっぴ：今回は、年間を通して草笛の講習をするというイベントではなく、新春草笛の集いを前面にした事業である。

委員：昨年度に実施していた草笛遊々塾が事業計画に入っていないが、今年度は実施しないのか。

ハッピー・はっぴ：今年度は市民協働事業として新春の集いを前面に出した。草笛遊々塾は継続して実施し、草ぶえの丘の来場者に対して指導させていただいている。

委員：そのような活動を通して草笛愛好者は増えたのか。

ハッピー・はっば：草ぶえの丘自体の入場者は増加している。草ぶえの丘の来場者が私たちの教室に足を運んで、無料体験をしていただいているが、体験教室には私たちの想定した人数より何倍もの方に来ていただいている。草笛教室に入りたいと関心を示す方もいるが、入場料が高いことと交通アクセスの問題から生徒の増加にはつながっていない。

委員：目的、概要、解決したい課題等は素晴らしいと思うが、期待する効果を考えた場合、年1回のイベントだけでは弱い印象を受ける。2回、3回と実施していくことを視野に入れた方が今後につながっていくのではないかと思う。

ハッピー・はっば：私たちも同じ考えである。季節によって草笛に使用する葉っぱも変わり、音色も変わる。予算や入場料をどうするかという問題があり、入場料410円を支払わないと、研修棟に入ることができない。草笛を奏でたいという気持ちがあっても、それがネックになってしまう。遊々塾に参加したいが入場料がかかってしまうので、参加を思いとどまる人もいる。可能であれば季節ごとに草ぶえの丘に集いの場をつくりたいと考えているが、どのような形をとったら良いのかは、これから草ぶえの丘、佐倉市、参加者、講師等で話し合う大きな課題であると考えている。

委員：草ぶえの丘で活動することも大事だが、広く市民に知ってもらうためには、草ぶえの丘でこのような活動をしているということを周知する催しを他の地域でも行ってみたいかどうか。

ハッピー・はっば：既に各地で実施している。

委員：実施しているのであれば、より活動が拡大できるよう努力してみたらどうか。

ハッピー・はっば：市内の様々なイベントに参加しており、集いも様々な場所である。城址公園やコミュニティセンター等で年に何回か行っており、多くの方に来ていただいているが、私たちが一番大事にしているのは、草ぶえの丘という場所で草笛の音色を絶やさずに守っていくことである。

委員：お茶をいただきながらとあるが、このお茶代は一般参加費の500円から支払うのか。

ハッピー・はっば：参加費からお茶代や講師謝礼を支払う予定である。草笛を演奏する愛好家の集いであるが、一般の方々にもご参加いただきたいので、カフェテラスというタイトルで飲み物をする。昨年は、子ども連れの家族にも多くご来場いただいたので、ジュースも用意して、気楽に参加できるようにしている。

委員長：他に質問等がなければ、ハッピー・はっばの質疑応答は以上で終了する。

西志津お囃子友の会（「青森ねぶた囃子の習得」）

委員長：4分以内で事業内容のご説明をお願いします。

西志津お囃子友の会：2年間ご支援をいただき、今年が3年目の申請となる。私たちのコンセプトとして、見るお祭りから参加するお祭りへと掲げて活動してきた。その中で青森のねぶた囃子が一番適しているのではないかと思い、2年間練習させていただき、少しずつ成果を上げてきた。地域のイベントとして西志津河津さくら祭りがあるが、これまでは河津桜を見てお客さんが帰ってしまっていた。ねぶた囃子を披露することで、お囃子に参加していただき、皆で盛り上げる形のお祭りが少しずつできてきたように感じる。地域の方々と触れ合う機会も増えてきており、昨年は臼井のふるさとにぎわい祭りに参加し、交流を広げている。これからも活動を通して、様々な方々と知り合い、より良い活動につなげていきたい。これまでの地域のお祭りでは、地元の方たちで盛り上がって終わってしまうことが多かったが、地域の方によるお祭りを作ろうという気持ちとお祭りに来たお客さんが一体となって盛り上げようという気持ちが少しずつ芽生えてきたように感じる。今年も引き続き、ご支援をいただければと思い申請をした。

委員長：これから質疑応答に入る。

委員：河津さくら祭りは人出が年々増えていると思うが、どのくらい増えたのか。

西志津お囃子友の会：正確には把握していないが、昨年度は約3,000人の方に来ていただいた。

委員：その中で一緒に踊ってくれた方はどのくらいいたのか。

西志津お囃子友の会：お囃子の演奏自体がお祭りの最後の方になってしまい、帰られる方もいた中で、全体の3分の1ぐらいの方にご参加いただき、盛り上げていただいた。

委員：前年度よりは増えているのか。

西志津お囃子友の会：ねぶた囃子の披露は2年前から行っているが、その前は出店の商品がなくなってしまう3時頃を過ぎると、人がかなり減ってしまっていた。それが、前年度に関しては、最後までお客さんに残っていただき、楽しんでいただいた。

委員：2ページの解決したい課題にお囃子の演奏を聞いて喜んでいただけているが、聞いているだけでその場から動くことがないと記載があり、説明と少し異なる部分がある。

西志津お囃子友の会：ねぶた囃子をする前も、聞いていただくお囃子を10年以上演奏していた。その時は、参加するお囃子ではなく、聞くお囃子を主に演奏していた。みんなで参加できるお祭りを目指して、ねぶた囃子の演奏を始めた。ねぶた囃子を始めてから、みんなで参加し楽しめるようになった。

委員長：解決したい課題であるので、その課題を解決するためにねぶた囃子を取り入れたということである。

委員：ねぶたを始めた初年度に祭りを見に行っただが、途中で帰ってしまう人もおり、全員参加とまではいかなかった。昨年度は参加者も多く、大変良かった。新たに入会した方は、河津さくら祭りを見て入会したのか、それとも、直接誘っているのか。

西志津お囃子友の会：河津さくら祭りを見て、一緒にやりたいと入会していただいた方も多くいる。

委員：臼井のふるさと祭りを見て参加しようと思う方もいるのではないかな。

西志津お囃子友の会：ねぶた囃子を先頭にして一緒に歩いてついていだけでも楽しいし、私たちが一番良かったことは、臼井の方々や臼井に来てねぶたを教えてくださいましたねぶたの会の人たちとも交流ができたことであり、大きな成果であると感じている。

委員：佐倉市全体でお囃子を披露することは考えていないのか。

西志津お囃子友の会：ぜひ呼んでいただければ、様々な地域へ出向いて、演奏し交流することを検討している。

委員：昨年度のまちづくりフォーラムで初めて拝見したが、子どもと大人が一体となった楽しい演奏だった。昨年度の河津さくら祭り当日は天気が悪かったが、演奏できたのか。

また、演奏はどうしても最後の方になってしまうのか。

西志津お囃子友の会：天気は良くなかったが、演奏した。演奏の時間帯はイベント日程の都合上、どうしても最後の方になってしまう。

委員：佐倉全体に広がっていけば良いと思う。

西志津お囃子友の会：披露する機会があれば、ぜひご紹介いただきたい。

委員：昨年の臼井のふるさと祭りで演奏していただいたが、例年よりも人出が多かった。その際に、柏のねぶたの会の方とお話をしたが、習得に12年かかったと言っていた。今後も頑張ってもらいたい。

委員：事業収入の講習参加費に30人とあるが、子どもからも参加費を徴収しているのか。

西志津お囃子友の会：講習会に参加するメンバー全員からいただいている。1ヶ月の会費200円で予算があまりないこともあり、やむを得ずこのような形にしている。

委員長：他に質問等がなければ、西志津お囃子友の会の質疑応答は終了する。

長いすの会（コミュニティカフェ・憩え場）

委員長：4分以内で事業内容のご説明をお願いします。

長いすの会：まずは、昨年度長いすの会の活動にご支援いただいたことに感謝申し上げます。

少子高齢化の中、地域で暮らす人々の連携、連帯がより一層必要になっている。気楽に立ち寄り、お茶を飲み、食事ができる居場所やカフェをつくらうとする動きが全国的に広がっている。コミュニティカフェの役割を一言で言うと、地域の課題を改善する取り組みを行い、情報発信を行うことである。長いすの会が取り上げる課題が3つある。1つ目は少子高齢化が進み、住民間のコミュニケーションが薄れていること。2つ目は1人暮らしや夫婦のみで暮らしている高齢者が増え、孤食や偏食によって食生活が悪化してきていること。3つ目は地産地消が地域に広まっていないことである。長いすの会は、2年半前に志津公民館で開催されたコミュニティカフェについての講座を受講した後、有志で常設のコミュニティカフェを開くことを目指して活動を開始した。地域の人々が気楽に立ち寄り、ランチを共にし、会話を楽しむことで住民同士のつながりができ、コミュニケーションを深めることができれば、もしもの災害時に助け合いがスムーズにできるのではないかと考えている。できることから始めようということで、公共施設をお

借りしてコミュニティカフェを開いている。事業概要としては、志津公民館、臼井公民館、西部地域福祉センター等で開催するコミュニティカフェ・憩え場を年4回と昨年の秋から中志津デイサービスの定休日に場所をお借りして、坐・しゃべり場を月に1回中志津自治会と共催で開催している。憩え場は参加人数が20名から25名で、坐・しゃべり場は20名となる。参加費はランチを提供するカフェは600円、お菓子を 제공하는場合は350円となる。憩え場は3部構成で行い、なごみタイムとして参加者に会話を楽しんでいただくことに重点を置き、脳トレ等を行っている。参加者の皆様が和んだところでくつろぎタイムに入り、地産地消で栄養バランスに富んだランチを提供し、健康づくりのヒントを提供している。また、食材の生産者の紹介も行っている。食後は、いきいきタイムに入り、認知症予防として健康体操の講師の方にご指導いただきながら、体操したり、歌を歌ったりする。坐・しゃべり場のテーマは健康と食事で、それに伴うミニ講座をおしゃべりの間に行っている。

委員長：これから質疑応答に入る。

委員：年4回のコミュニティカフェの実施ではランチを提供し、中志津のデイサービスはお茶のみか。

長いすの会：お茶とお菓子を提供している。

委員：お菓子は手作りなのか。

長いすの会：調理する場所がないので、デパート等で購入したお菓子を提供しており、好評をいただいている。

委員長：常設を目指すと言っていたが、その展望はどのように考えているのか。

長いすの会：2025年問題に対して、厚生労働省が高齢者ケアを目的として地域包括ケアシステムを掲げ、介護予防、生活支援の担い手として一般市民の助け合いを望んでいる。コミュニティカフェが果たす役割も期待されている中で、我々の活動がその担い手になれるかどうか。もし可能であれば、その担い手になりたいと考えている。そのためにも、市と協働し、アドバイスをいただきながら活動を進めていきたい。

委員長：常設の場合は、公共移設を借りることを考えているのか。

長いすの会：定期的に、公共施設をお借りしているが、予約をとるのが大変な状況で、抽

選で外れることもある。協働させていただくことにより、会員数をより増やして、会場の確保もしていただければと考えている。

委員：3ページの事業計画には、憩え場としゃべり場の参加人数が記載されていないが、5ページの収支予算にあるように憩え場が120名、しゃべり場が187名の参加を予定しているという認識で良いか。

長いすの会：予定より多く集まる場合もあれば、少なくなる場合もあるが、おおよその人数ということで記載している。

委員：解決したい課題にコミュニティカレッジさくらの授業とその資料等とあるが、この種の参考になる授業があるのか。

長いすの会：委員長に担当講師としてご教授いただいた。

委員長：公民館で学んだことを実践するという意味では良いことである。

委員：6ページの収支予算書に健康体操指導員の謝礼が計上されているが、高齢者福祉課や包括支援センターにお願いすれば無料である。

長いすの会：講師の方は、お話が上手で参加者の状況に応じたご指導をしていただけの
で、お願いをしている。

委員長：事業に必要な専門性を備えているということで、講師をお願いしているということか。

長いすの会：毎週、体育館等でご指導されている方でとても人気のある先生であるので、参加者の中にもそれを楽しみにしている方がいる。

委員：コミュニティカフェを実施するにあたり、こうほう佐倉等で参加者募集の案内をしているとのことだが、広報費は計上されていないので、広報さくらへの掲載だけで定員に達してしまうのか。

長いすの会：昨年も広報さくらに掲載したが、来ていただきたい方のところに情報がなかなか届かなかった。配食サービスをしている方やボランティアセンターの方のご協力や口コミ等により、今年は定員以上の申込みをいただいている。

委員：6ページの収支予算書が、消耗品費の詳細まで記載されており感心した。

委員：コミュニティカフェの参加者には毎回くる方もいれば、新規の方もいるのか。

長いすの会：毎回来ていただいている方もいるが、コミュニティカフェの必要性を多くの方に伝えるために新規の方を優先している。

委員：中志津で行っているしゃべり場は場所が毎回同じなので、同じメンバーが多く、コミュニケーションも取りやすいのではないかと。

長いすの会：コミュニティカフェは4回で新規の方を優先しているので、せっかく仲良くなってもコミュニケーションを続けるのが難しいが、しゃべり場は同じ場所でやっているのを重ねるごとに仲良くなっていく様子がわかる。

委員長：他に質問等がなければ、長いすの会の質疑応答は以上で終了する。

ふるさと・学び・繋ぐ会（地域食材を活用した和洋菓子作り）

委員長：4分以内で事業内容のご説明をお願いします。

ふるさと・学び・繋ぐ会：一昨年度、和田公民館で実施した佐倉学び塾「食の地域モデルで新たな価値を考えよう」がきっかけで、この活動を始めた。佐倉ならではの地域食材を活用した付加価値のある商品づくりを行うこととその過程を通じて地域の素晴らしさを再確認して地域の活性化に役立つようなきっかけになればと考えている。具体的な事業内容としては、特産品である大和芋と米粉と旬の食材を使用したお菓子づくりを和田地区で継続して行う。羊羹やかかん等の和菓子、カステラやシフォンケーキ等の洋菓子をつくる。旬の食材は季節ごとに果実や野菜を含めてつくる予定である。他の地区と一緒にできないかという話があるので出前講座の実施を考えている。また、市内には老舗のお店が多く存在するので、そのような所の材料を使用した商品づくりができないかと考えている。完成した商品を市民や消費者に周知したり、機会があれば販売したいと考えている。1年近く活動してきたので、さらにレベルアップするために専門の方にご指導いただき、同じような取り組みをしているところの視察もできればと考えている。これまで定期的に活動してきたが、この機会を通じてさらに充実させていきたい。地産地消にこだわった価値のあるものがつくればと考えている。

委員長：これから質疑応答に入る。

委員：2ページにイベント等で商品の紹介や販売等を行うとあるが、予算に食品衛生に関する検査料が計上されていない。また、先進地視察について、具体的な行き先が決まっていれば教えてほしい。

ふるさと・学び・繋ぐ会：食品安全に関することは、1ページの希望する支援内容に記載している。これまでは素人の取り組みであったが、実際に販売するとなると衛生面にも気を付けなければならないので、保健所等や専門の方にご支援いただければと思い、希望する支援内容に記載した。先進地視察については、技術レベルを上げるために専門店で実施しているお菓子づくりの教室に参加する事を考えている。また、大和芋を使用した同様の取り組みは群馬県太田市の尾島地区で行っており、そこでは様々な事業所が一体となって商工会を挙げた活動をしているので、視察し活動のヒントになればと考えている。

委員：事業の目的や効果は理解できるが、和菓子やケーキづくりの専門家を自ら探すことも重要ではないか。また、自分たちでイベントや企業等の情報収集をすることも事業を進める上で大事ではないかと思う。2ページの解決方法に地産地消のオリジナル商品づくりを目指すとあるが、具体的に考えている商品はあるか。

ふるさと・学び・つなぐ会：自分たちで自ら探すという点については、現在は作れるメンバーを増やす活動をしている。つくる過程で様々なアイデアが出てくのではないかと思う。今までの料理教室では同じ料理を覚えてつくることが多い。その次の段階として、自分たちのアイデアや工夫を重ねていくうちに新商品が生まれてくるのではないかと考えている。また、オリジナル商品としては、大和芋と米粉をベースに季節の食材を加えることで、シフォンケーキにしても20～30種類はつくれるのではないかと思う。市内の老舗と呼ばれる企業の食材を使用した佐倉らしい商品も考えている。

委員：事業として申請するのであれば、もう少し具体的にした方が良いのではないかと思う。

委員長：この回の最終的な目標はどこになるのか。起業は考えているのか。

ふるさと・学び・繋ぐ会：起業の前に色々なものが生まれる下地作りが必要であると思う。もう少しレベルを上げれば商品にできるのではないかと考えているものがあるが、それを作れる人を増やし、地域の人でも作れるようになれば、そこから新商品も生まれるのではないか。大きな収入にならないとしても、皆で集まり、コミュニケーション

を図る場として、ビジネスができればと考えている。

委員長：会の財務状況や実施体制を考えるとこれだけの活動をやり切れるのかという不安がある。

ふるさと・学び・繋ぐ会：現在は和田地区を中心に活動しているが、学び塾の段階では他の地区の方もおり、15名ぐらいのメンバーがいた。その方たちには、まだ正式に声掛けはしていないが、話がもう少し具体的に変わった段階で声掛けをしようと考えている。また、和田公民館以外でできないのかというお話があるので、中央公民館や根郷公民館での活動も想定している。

委員：5ページの収支予算書には、会費として料理講座5回分と出前講座3回分が計上されているが、スケジュールを見ると出前講座は2回分しか記載がなく、人数も若干の相違がある。また、スケジュールには研修の記載があるが、2ページの解決方法には研修に関する記載がない。事業収入として、215,000円が計上されているが、具体的にどのようなイベントを考えているのか。

ふるさと・学び・繋ぐ会：人数については、和田地区以外の方にも声掛けをするので、予算には若干多めに計上した。研修については、料理の知識がなく、つくろうとしているものに特化して技術レベルを上げるため、専門店での研修を考えている。イベントについては、はっきりとは決まっていないが、他地区と交流できれば活動がより広がっていくのではないかと思います、将来的には新町等でのイベント等でできればと考えている。

委員：6月に予定されていたお菓子づくりはもうやったのか。新町のイベントはどのあたりか。

ふるさと・学び・繋ぐ会：6月のお菓子づくりは既にも実施した。新町は市立美術館周辺を考えている。

委員長：他に質問等がなければ、ふるさと・学び・つなぐ会の質疑応答は以上で終了する。以上で全申請団体の質疑応答は終了となる。ここで休憩をとるが、次の審議は非公開となるため、傍聴人は退室をお願いします。

(休憩)

(2) 市民協働事業(市民提案型)の審議(評価・意見調整等)(非公開)

4 . その他

- ・ 委員報酬の支払い日について
7月中旬を予定

5 . 閉会

委員長：以上で本日の委員会は終了とする。お疲れ様でした。

平成28年8月5日(金)

委員長	名和田 是彦
副委員長	近藤 維久子
議事録署名人	宇田川 光三